St. Luke's International University Repository

国際精神保健学会 (International society of psychiatric-mental health) 参加報告

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2007-12-26
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 岡田, 佳詠
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/445

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

3．ドイツ病院の見学研修を通して

2002年8月12日から16日までドイツの小児病院での見学研修の機会を得ることができた。今回の研修の目的は，医療・教育・福祉など他職種との連携や協力について学ぶことであった。ドイツは，古くから病気や障害をもつ子どもたちの統合教育が行われてきているところである。

今回訪問した4箇所の病院（フランクフルト市立小児病院，ケルン市立小児病院，パルクシェーン小児病院，ミュンヘン大学小児病院）は，病床数136床から300床の病院である。スタッフは，医師，看護師，技師，療法士，心理士，ケースワーカー，学校教員，保育士，神父など，人数の差はあるがどの病院にも多くの専門スタッフが配属されており，入院児や通院してくる子どもの療育支援，心理・社会的支援を重視したケアを行っている。入院児の家族は24時間面会や付き添いが自由であり，医療への参加の権利が保障されている。どのようなスタッフが，どのように連携をとりながらケアを行っているのか，家族にもわかるように紹介され，週1回のチームカンファレンスには親も同席している。また，退院後の児や通院中の児のための地域とのカンファレンスも開催され，継続ケアが行われている。専門職同士がお互いの役割や立場を認識し，子どものQOLに向けた取り組みが行われている様子を垣間見ることができ，福祉や教育との協働について示唆をえることができた。

（小児看護学：及川　郁子）

4．国際精神保健看護学会（International Society of Psychiatric-Mental Health Nurses）参加報告

今年度，羽山由美子，水野恵理子，筆者の3名は，2002年4月24日から27日まで，ワシントンDCで開催された国際精神保健看護学会第4回大会に出席した。

今回の学会のテーマは“ACTION, ADVOCACY & ADVENTURE”であった。参加者は約180名，米国が中心で，ヨーロッパ，アジア圏からの出席は非常に少なかった。

今回筆者は，“The Awareness of Japanese BS Students of the Significance of a Psychiatric Nursing Clinical Practicum”というテーマでポスター発表を行った。学会中の話題にも学部と修士での教育プログラムに関することがあがっており，米国の事情とは異なるにしても，日本における学部生の精神看護実習に関する発表ができたことは意義深かったといえる。

今大会の主な講演内容は，ADHD（Attention Deficit Hyperactivity Disorder）の研究から実践まで，自殺予防，ドメスティックバイオレンスが子供に与える影響を探求する有効なシステムについて，痛み管理，ベトナムで働くナースのPTSD（Post-Traumatic Stress Disorder）の精神生理学，扇動的・攻撃的な患者のアセスメントと薬物管理などであった。また研究発表は，対象がうつ病，PTSD，虐待などの問題を抱える子供や思春期，女性，高齢者，家族など，また昨年のテロの影響を受けた災害看護に関連するものもあり，日本の学会での発表内容とは異なるものだった。

今回の研究発表の中で注目したのは，トラウマや虐待の神経生理学的な影響，さらに中枢神経の構造・機能上にどのように永続的な変化を導くか，について述べたものであった。また，“Depression Collaborative”といううつ病患者のスクリーニング，アセスメント，治療を改善していくプログラムがあり，それを実践報告したものも興味深かった。また，最後の講演となった，扇動的・攻撃的な患者のアセスメントと薬物管理に関するものは，具体的なケースや対応が述べられ，大変参考になるものであった。

今回の学会に参加することで，今後の日本での実践及び研究において，非常に多くの示唆を得ることができた。

（精神看護学：岡田　佳詠）